

Good Choice

グッドチョイス

まちの話題をお寄せください。

総務部広報統計係 ☎ 75-2116 / FAX 75-2110



▲13cmほどに伸びた「夢しづく」の苗を水田に植える尾形さん

福島光男さん 旭日双光章を受章

春の叙勲で福島光男さん（西多久町板屋）が長年にわたる地方自治功労による旭日双光章を受章されました。

福島さんは、昭和46年4月から昭和62年4月まで4期16年、多久市議会議員として在職し、その間、副議長、議会運営委員長、総務常任委員長などの要職を歴任。産炭地からの脱却を目指した都市づくりのため、都市基盤整備や産業振興、鉱害復旧事業の促進、教育施設の整備など市民生活の安定に尽力し、市政発展に多大な貢献を続けた方です。また、交通安全協会西多久支部長や消防団西多久分団長など地区での功績も大です。

福島さんは、「高速道路建設の用地交渉や森林組合の小城・多久合併など、思い出す数々で力を注げたのはみなさんのおかげ。市民憲章策定にも尽力できたことが心に残ります。この受章はもったいなく、感無量です」と受章を喜ばれ、「これからも健康に気を付け、趣味のカメラに親しみ、楽しみは孫やひ孫の成長です」と笑顔でした。



▲喜びの福島さんと夫人の那智子さん

豊作を願い
“田植え”
順調に進む

より美味しく、生産性の高い米づくり

5月中旬、西多久町で田植えが始まりました。生産者は、多くの風土と収穫時期を考慮した数品種を組み合わせた作付計画を立て、より美味しく、生産性の高い米づくりに精進。6月下旬まで1か月以上をかけ、東の平野部に向けて、作業は進みます。市内では主に、『さがびより』『ヒノヒカリ』『夢しづく』『天使の詩』などのうるち米や、もち米の『ヒヨクモチ』などが650haで栽培。中でも、昨年登場した『さがびより』は、近年の温暖化で、収穫量や品質に影響が出ている『ヒノヒカリ』に代わる新品種です。艶よく、大きくしっかりした粒、もっちりした食感などの特長があり、今年産は昨年の約3倍となる202haで植え付け、主力品種として大きな期待が掛けられています。

中山間地域の特性を活かした『夢しづく』の栽培が盛んな西多久町で5月13日、いち早く田植えに取り掛かった尾形和夫さん（山口）は、「順調な苗の生育でスタート良好。緑肥として蒔いたレンゲ草をすき込んだので、その成果が楽しみ」と豊作を期待していました。

移動市長室で 市長と語る

第1回移動市長室を西多久公民館で開き、市内から5組の個人・団体が市政に対する意見や実情を市長に訴えました。移動市長室は、横尾市長が市民や団体の方々から、直接地域の課題や市政に対する相談や提言をうかがい、これからの市政にいかしていくために実施するもので、本年度各町公民館を巡回し、計10回開催します。今回は、子どもたちの教育のあり方や地域の活性化、新たな市民生活の推進、市道・河川改修などの提案がありました。

5/19



1期生60人で 多久ミュージカルが 旗揚げ

多久市民大学ゆい工房は、11月7日に旗揚げ公演を行う『多久ミュージカルカンパニー』の出演者オーディションを5月15・16の両日に行い、小学1年生から大人までの60人の1期生が決まりました。本公演に向けて、演技や歌・ダンスなどのトレーニングが始まり、多久市民による「オリジナルミュージカル」がキックオフ。工房では、中学生以上のボランティアスタッフも募集中です。

5/15

～ 5/16

